

梅雨空の季節になりました。今号の特集は、「骨癒合の基礎と臨床」です。脊椎固定術は、移植した骨により椎骨間の骨癒合を図り、その結果として脊椎の可動性をなくして疼痛や神経症状の改善を図る手術法です。したがって、骨癒合のメカニズムを理解することは脊椎外科医にとって必須です。しかし、強固な脊椎内固定金属や生体親和性や骨伝導能の優れた人工骨が開発された現在でも、固定術を施行した症例 100% に骨癒合が得られません。また、骨癒合後の強度も問題となります。したがって、良好な臨床成績を目指して今後も骨癒合率の向上、移植骨の強度改善の努力が行われます。すなわち、これらの問題は、脊椎外科医にとって永遠のテーマです。しかし、脊椎外科医を目指した 20 数年前を振り返ると、その進歩に愕然とします。現状の総括として、今回このすばらしい特集を組んでいただいた谷 論先生や執筆の先生方には心から深謝いたします。また、10 年後に今回のテーマを振り返るのが実に楽しみです。

先日、第 45 回日本脊椎脊髄病学会学術集会を幕張で開催させていただきました。特別講演として東北大学名誉教授の国分正一先生に「脊椎脊髄外科と創造性：気付き、こだわり、そして体系化」をご講演いただきました。先生は本誌の 2006 年までの編集委員でした。編集委員当時、感服したことに、2002 年 2 月号に「胸部脊髄症：後縦靱帯骨化症手術の到達点」の特集企画があります。現在でも、脊椎外科の最も難しい、危険な手術の 1 つである胸椎後縦靱帯骨化症の手術についての特集です。当時はこの手術を行う施設も術者も少なく、術者は日本全体でも 200 人いないとされていました。言い方をかえると 200 人ぐらいの読者のための脊椎脊髄専門誌ならではの企画ともいえます。そして予想通り部数は伸びなかったそうですが、本誌で紹介された内容が、現在の本症に対する標準的な考えや術式として普及し、治療成績も格段に向上しました。さらに驚くのは、大家に混じって執筆していた俊英に山崎正志先生、松山幸弘先生がいたことです。そしてお二人とも現在、本誌の編集者になりました。国分先生のすばらしい特別講演を拝聴しながら、あらためて先生の企画力、見識の深さを思い起こしました。

今年度から、長く本誌の編集長を務めた戸山芳昭先生が退き、私が編集長として頑張ることになりました。戸山先生には長らく、ありがとうございました。また、今年度から新たに副編集長を設けて金 彪先生にお願いし、新しい体制で本誌を支えていきたいと存じます。よりよい誌面になるように頑張っていきたいと存じます。よろしくお願い申し上げます。

(徳橋泰明)

脊椎脊髄ジャーナル

編集顧問

長島親男 小野啓郎 萬年 徹
高橋 昭 金田清志 小山素磨
小柳知彦 田代邦雄 国分正一
服部孝道

編集委員

徳橋泰明 (編集委員長)
金 彪 (副編集委員長)
青木茂樹 安藤哲朗 園生雅弘
高橋敏行 高安正和 田口敏彦
谷 論 中村雅也 根尾昌志
飛驒一利 松山幸弘 山崎正志

Vol. 29 No. 6
(2016 年 6 月 25 日発行)

毎月 1 回 25 日発行

1 部定価 (本体 2,300 円 + 税)

(配送料別)

年ごめ予約購読料 30,700 円 + 税

送料弊社負担

発行／株式会社 三輪書店
代表者 青山 智

〒113-0033

東京都文京区本郷 6-17-9

本郷網ビル

TEL 03-3816-7796

FAX 03-3816-7756

URL <http://www.miwapubl.com/>

(担当：山岸)

印刷所／三報社印刷株式会社

TEL 03-3637-0005

広告申込所／

(株)文栄社

TEL 03-3814-8541

(株)ハイブリッジエージェンシー

TEL 03-3814-0089

本誌の内容の無断複写・複製・転載は著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

Published by MIWA-SHOTEN Ltd.

6-17-9 Hongo, Bunkyo-ku, TOKYO © 2016,

Printed in Japan

JCOPY 〈出版者著作権管理機構 委託出版物〉

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構(電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。